

## グリーンプラン 2035 における事業評価指標（案）について

### 1 グリーンプラン 2025 の事業評価にあたっての課題

グリーンプラン 2025 では、事業評価にあたり、事業自体に明確な計画事業量を設定していなかったり、事業の評価基準が定性的な評価基準であるなど、事業評価の精度に課題がありました。

このことについて、次期計画であるグリーンプラン 2035 では、可能な限り事業自体に年度ごとの計画事業量を設定するとともに、事業の評価基準を定量的な実績及び定性的な実績の両方に対応した新たな評価基準として設定することにより、評価の精度を向上させることを検討しております。

これにより、明確な事業評価の実現のほか、今後、グリーンプラン 2035 の事業評価を担う、第七期以降の「緑と公園の推進会議」において、事業評価に充てる時間を最小限にとどめ、これまで以上に、構成員の皆さまから事業改善や有効な施策・事業へのご提案・ご助言をいただく時間に充てることが可能となり、より有効かつ効率的な会議運営を行うことができます。

表1. 現計画グリーンプラン 2025 の評価指標

評価	判定基準	詳細
A	実施した、 又は実績が向上した	施策の目標に資する取組を実施した。 または、実績が向上した。
B	検討した、 又は実施したが十分な効果なし	施策の目標に資する取組を実施したが、十分な効果がなかった（改善しなかった）。
C	実施しなかった、 又は実績が低下した	施策の目標に資する取組を実施・検討しなかった。 または、実績が低下した。

※次項につづきます。

## 2 次期計画グリーンプラン 2035 の事業評価（案）

グリーンプラン 2035 における新たな事業評価指標及び仮定事業例を次に示します。なお、評価基準は共通ですが、説明用の評価事業（見本）を「定量的事業量」と「定性的事業量」に分けて記載しております。

### （1）評価基準

表2. グリーンプラン 2035 の評価指標（案）

評価	判定基準
達成+	計画事業量を上回る実績となっている、
達成	計画事業量の全部若しくは大部分を達成している。
未達成	事業量の全部若しくは大部分が達成されていない。

### （2）事業（例）

#### （2-1）定量的事業量が設定された事業

事業名：「（仮称）赤塚植物園におけるみどりの講習会」

年間予定回数：3回

表3. 実施回数に基づく定量的評価（例）

評価	事業例（イベント目標回数 3回／年）
達成+	4回／年（達成率 100%を上回る）
達成	2～3回／年（達成率 70%～100%）
未達成	0～1回／年（70%未満）

※定量的評価の1の位は四捨五入することとする

※次項につづきます。

## (2-2) 定性的事業量が設定された事業

事業名：「(仮称) 新たな緑化助成制度の確立」

事業予定：令和8年度：関係機関協議

令和9年度：事業者ヒアリング

令和10年度：制度制定・運用開始

表5. 実施行程に基づく定性的評価(例)

評価	令和8年度評価
達成+	関係機関協議を完了し、事業者ヒアリングを実施。
達成	関係機関協議を完了。
未達成	関係機関協議を実施したが、協議達成には複数項目で継続協議が必要、又は関係機関協議を実施できなかった。